

単元名 跳び箱を使った運動遊び

<p>児童の実態 ①既習事項 ②単元について</p>	<p>2年生は、体を動かすことが大好きな子どもたちが多い。子どもたちはこれまで、「固定施設遊び・鉄棒遊び」、「マット遊び」を通して、運動遊びの動き方を知り、友達の良い動きを見付けたり、教え合いをしたりすることで、自分の動きに生かしてきた。 本単元では、跳び箱に乗ったり跳び下りたりする動きを遊びを通して、跳び箱の基礎的な動きを身につける。次に、跳び箱を繋げたり、跳び下り方を工夫することで、跳び箱の基礎的な動きの力をさらに高め、3年生での開脚跳びなどがスムーズにできるようにする。</p>
<p>身につけさせたい力</p>	<p>本単元では、踏み越し跳びや、またぎのり・またぎおり、支持での跳び乗り・跳び下りなどの動きに楽しく取り組み、基本的な動きができるようになったり、自分の演技と友達の演技を比べてよりよくなったり、遊び方を工夫したりする力を伸ばしたい。 さらに、跳び箱運動と関連の深い動きを取り入れることにより、基礎となる体の動かし方や感覚を身につけさせたい。</p>
<p>ICTの利活用</p>	<p>本単元では、タイムシフトカメラや動画の模範演技を確認したり、タブレット端末で友達から撮影してもらった自分の演技を見返したりすることによって、「どうすればよりよい演技になるか」、「何ができるようになったか」を客観的に知ることができる。 また、撮影した動画を友達と見せ合うことで、よいところや改善点を伝えあうことができる。 これにより、運動することが苦手な児童も友達と協働し、友達の良さを見つけて自分の動きを工夫することができると思う。</p>

<p>単元の目標</p>	
<p>○次の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、その動きを身につけること。 跳び箱を使った運動遊びでは、跳び乗りや跳び下り、手をついてのまたぎ乗りやまたぎ下りをする事。 [知識及び技能] B器械・器具を使つての運動遊び(1)エ ○器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。 [思考力・判断力・表現力等]B器械・器具を使つての運動遊び(2) ○運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。 [学びに向かう力, 人間性等]B器械・器具を使つての運動遊び(3)</p>	
<p>言語活動</p>	<p>○友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えること。 [思考力・判断力・表現力等]B器械・器具を使つての運動遊び(2)イ</p>

単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①踏み越し跳びや跳び乗りや跳び下り、手をついてのまたぎ乗りやまたぎ下りの行い方を知っている。 ・踏み越し跳びや跳び乗りや跳び下り、手をついてのまたぎ乗りやまたぎ下りをする事ができる。	②器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫しているとともに、考えたことを友達に伝えている。	③跳び箱を使った運動遊びに進んで取り組もうとし、順番やきまりを守り、友達と仲よく運動しようとしていたり、跳び箱の安全に気をつけたりしている。

単元計画		[評価計画]
第1時	学習の進め方を知る ・跳び箱遊びにつながる感覚遊びをする。 ・場の設定や学習の進め方を理解する。	③
第2時 ～ 第4時 (本時)	いろいろな跳び方で、跳び箱を跳んで楽しむ。 ・跳び箱遊びにつながる感覚遊びをする。 ・跳び箱を使って、いろいろな跳び箱遊びをする。 ・踏み越し跳び・またぎ乗り・またぎ下り・支持で跳び乗り・跳び下り	① ③
第5時 ～ 第6時	工夫した跳び方にチャレンジする。 ・跳び箱遊びにつながる感覚遊びをする。 ・着地の位置を決めて跳ぶ・高く遠くに跳ぶ・いろいろなポーズで着地 ・ドンジャンケンをして	② ③

研究仮説 「主体的・対話的で深い学び」の実現の視点に立ったICTを利活用した授業展開の工夫
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
タイムシフトカメラやタブレット端末で自分の演技を客観的に見たり動画を観ながら、よいところを伝え合ったりすることで、自分の演技をよりよくすることができるであろう。

本時の指導

(1)目標

- いろいろな跳び方で跳び箱を跳んで楽しむことができる。

(2)展開

過程	学習活動	指導上の留意点
つかむ 10分	1 準備運動をする。	○跳び箱運動につながる運動という意識をもたせる。
	2 はじめの運動を行う。 ○くま歩き ○うさぎとび ○かえるの足うち ○かえるのさか立ち	
	めあて:いろいろなとび方だとびばこをとんで楽しもう。	
	3 本時の学習の流れを確認する。	○前時までの学習を振り返りながら、ポイントをおさえる。
考える 深める 25分	4 跳び箱を使って、いろいろな跳び箱遊びをする。 ・踏み越し跳び ・またぎ乗り・またぎ下り ・支持で跳び乗り・跳び下り ・ピョンピョンうさぎ	1 形成[個別学習] ○グループごとに4つの種目の練習をする。 ○タイムシフトカメラ・模範演技の動画を利用する。 ○掲示物の技のポイントを意識させる。 ○器械運動につながるような、よい動きをしている児童を称賛する。 ○順番やきまりを守って、仲よく運動している児童を称賛する。  2 深化・交流[協働学習] ○得意な種目を友達と撮影し合う。  3 認め合い[協働学習] ○友達と動画を見せ合い、よいところや改善点を伝え合う。 ○友達のよい動きを見つけるように、言葉かけをする。 ○「もっと○○したらよくなるよ。」など、具体的に説明できるようにする。  4 確かめ[個別学習] ○友達と伝え合ったことをもとに練習する。
まとめる 10分	4 学習の振り返りをする。	2 認め合い・共有[協働学習] ○数人に友達のよい動きを発表させることで、頑張りを認め、共有させる。 ○よい動きと紹介された児童に実演してもらい、自分の動きに取り入れられるようにする。
	5 振り返り	○振り返りの視点を与えることで、本時の学びを実感し、次時への意欲を高める。また、友達と学ぶことの良さを実感させる。
	6 後片付けをする。	

(3)評価

○ いろいろな跳び方で跳び箱を跳んで楽しむことができたか。

場の設定



